

氏名(ふりがな)	荒木 武昭 (あらかき たけあき)
所属機関・部局・専攻内の所属分野	京都大学 大学院 理学研究科
身分・学年 (学生の場合は指導教員名)	准教授
メールアドレス	araki@scphys.kyoto-u.ac.jp
電話番号、FAX	075-753-3825

セミナー・シンポジウム名	7th International Conference Engineering chemical complexity
場所 (国名・都市)	ドイツ・ヴァーネミュンデ
派遣期間	2013/06/09 – 06/16
セミナー等の日程	2013/06/10-13, 14 日はゲッチンゲン Max Planck 研究所を訪問
URL	http://www.bcscs.de/CONFERENCES/CONFERENCE-2013/

セミナー・シンポジウムに参加することで得られた知見・議論の成果を500字程度で記述してください。スペース不足の場合は、用紙を追加してください。感想などもあれば記載してください。

2013年6月10日～13日の4日間、ドイツのWarnemundeにて開催された国際会議7th International conference Engineering of Chemical Complexityに参加し、Nonequilibrium behaviors of nematic liquid crystals flowing in porous media という題目で口頭発表を行った。この会議は、ドイツ側メンバーのA. Mikhailov教授の主催によって行われた会議である。アクティブマター、反応拡散系、電気化学、同期現象、ネットワーク、ソフトマターなどを題材としており、特に反応拡散系や電気化学等については、普段、私が耳にしていなかったテーマであり、その先端的な話をまとめて聞くことができる、非常に興味深い会議であった。その反面、自分の知識不足から来る、講演内容に対する消化不良があったことが否めないことは残念である。私自身が今後、そういったテーマに直接的に入っていくことはないかもしれないが、自分のテーマに活かせるような研究や、今後、間接的にでも取り組んでいきたい題材もあった。ソフトマター分野の参加者は多くなく、残念ながら自分の発表が多く聴衆の興味を引いたとは言えない状況ではあったが、自身の視野を広げるのに非常に有意義な会議であった。

また、6月14日は、ゲッチンゲンのMax Planck研究所を訪問し、S. Herminghaus教授、C. Bahr教授、A. Sengupta博士らと、ソフトマター系、粉体系に関する議論を行った。また、Connectivity of topological defects in nematic liquid crystals confined in complex geometries という題目でセミナーを行い、いくつかの有益な質問、コメントをもらった。今後の研究の発展のための参考としたいものばかりである。また、Herminghausグループの、液晶を用いた、マイクロ流路の研究、液晶・界面活性剤・水混合系における新規な相、トモグラフィーを用いた粉体材料の観察等についての最新の成果を聞く機会を作って頂いた。いずれも、レベルが高く興味深いものばかりで、自分も手を伸ばしてみたいテーマも多くあった。また、近いうちにもっと長い期間を掛けて、訪問する機会を持ちたいと考えている。